

震災から8年…まだまだ支援が必要です。 東日本大震災復興支援募金に ご協力をお願いします



東日本大震災の被災地は、時間の経過と共に復興・復旧がすすんでいるようにも見えますが、必ずしも人々が安心して暮らせるとは言えない状況です。グリーンコープは人と人とのつながりを大切に、現地の人々に寄り添いながら、その時々に必要な、細やかな支援を続けています。特に、東京電力の原発事故によってそれまでの暮らしや地域のつながりを失った多くの人たちへの支援を、積極的に行っています。

復興はまだまだ道半ばです。今後も支援を継続できるよう、今年もカンパに取り組みます。

あの震災から8年が経ちます。甚大な被害状況と人々の暮らしが一変している様子を知り、これまで毎年カンパに取り組んでいます。ご協力下さり、本当にありがとうございます。

お届けいただいたカンパ金は、被災をされた方々の支援に、大切に、有効に活用させていただいています。



グリーンコープ共同体
代表理事
熊野千恵美さん

現地では、暮らしが落ち着き、少しずつ笑顔が戻ってこられた方もいらっしゃるが、まだ暮らしの再建の目途がたてられない方もおられます。行政だけでは限界がある中、助け合いのカンパで応援していきたい方々がまだまだおられます。お届けいただいたカンパ金は、現地で活動する共生地域創造財団を通じて、必要とされる支援に活かされています。カンパへのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

▲除染で取り除いた土などが入ったフレコンバッグ。福島県にはフレコンバッグの仮置き場が至る所に存在する。住宅地も例外ではなく、人々の生活のすぐそばにあるのが現状。

避難者の推移実績

	2011年12月			2018年12月		
	県内	県外	計	県内	県外	計
岩手県	43,953	1,536	45,489	4,154	1,058	5,212
宮城県	122,557	8,603	131,160	2,426	4,237	6,663
福島県	95,200	59,464	154,664	10,064	32,880	42,944
計	261,710	69,603	331,313	16,644	38,175	54,819

(2018年12月11日 復興庁データ)

東日本大震災復興支援募金

何口でも
申し込みます

008 一口 **200円** **009** 一口 **500円**

■共同購入申込書の申込番号の数量欄に口数をご記入ください。

※【例】申込番号 **008** の数量欄に「2」と記入された場合は、400円のカンパとして受け付けさせていただきます。

カンパのお申し込みは51・52号でできます(3月4日～16日)

これまでの募金状況

組合員及びお取引先・その他から寄せられた募金総額
324,518,557円

支援に活用
269,512,368円

残高
55,006,189円

(2018年12月20日現在)

岩手・宮城での支援活動

見守り訪問・相談支援(岩手県・宮城県)

岩手県大船渡市、大槌町、宮城県石巻市では、行政からの委託を受け、仮設住宅に暮らす人々や災害公営住宅などに転居した人々の見守り支援をしています。*公益財団法人共生地域創造財団のスタッフが訪問して、一人ひとりの悩みに応じ、問題が解決するまで寄り添う「伴走型」の支援です。



▲仮設住宅などを訪問し、相談支援に取り組むスタッフ。

岩手、宮城両県の仮設住宅が2018年度末で閉鎖(一部を除く)することに伴い、被災者の退去がすすんでいます。災害公営住宅や自宅へ転居しても、家賃の支払いへの不安や転居先の地域との関係づくりなどさまざまな課題があることから、転居後も見守り支援を継続しています。



*公益財団法人共生地域創造財団
グリーンコープ、ホームレス支援全国ネットワーク、生活クラブ生協が連携して、共生地域の創造を目指し、被災地の復興支援を行っている団体

これまでの見守り訪問・相談件数

大船渡事務所 (スタッフ10名)	大槌事務所 (スタッフ5名)	石巻事務所 (スタッフ12名)
1, 通算件数 6,500件以上の支援活動(訪問、相談等)	1, 通算件数 1,587件	1, 通算件数 2,499件
2, 2017年度 訪問:1,746件 来所相談:70件	2, 2017年度 857件(2017.4~2018.3)	2, 2017年度 920件(2017.10~2018.3)
3, 2018年度 訪問:1,141件 来所相談:37件	3, 2018年度 730件(2018.4~2018.12)	3, 2018年度 1,579件(2018.4~2018.11)
4, 月間平均 140件	4, 月間平均 75.5件	4, 月間平均 178.5件



▲大槌事務所スタッフ



▲大船渡事務所スタッフ



▲石巻事務所スタッフ

見守り支援をしている大槌事務所より

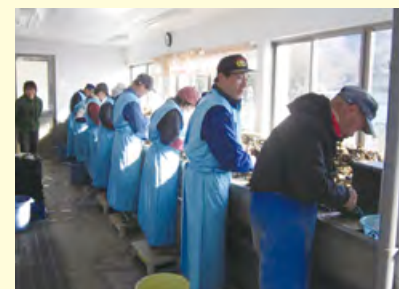
大槌事務所では出会ったみなさんとのご縁を大切に、行政では難しい柔軟できめ細かな対応を心がけています。

出会った方々の抱える複合的で多様な課題に向き合うこともですが、まずは、みなさんがその人らしくいられるような関係性づくりを大切にしながら取り組んでいます。

閉鎖される仮設住宅から、安心して住み続けられる住宅への転居を支援するだけでなく、転居後も安心して健康的な生活を送れることを、みなさんとスタッフ双方の目標として、復興を越えた復興に向かい共に歩んでいます。



就労訓練支援 蛤浜・折浜(宮城県)



宮城県の小さな漁村、蛤浜・折浜へ、被災して全滅したカキ養殖を復活させるための支援を続けてきました。2012年よりカキ養殖を再開され、今では震災前の量を出荷できるまでになりました。

共生地域創造財団の取り組みである就労支援に共感され、2013年からカキ剥き場で就労訓練生を受け入れていただいています。

今後はつながりのある団体と共に、就労訓練のネットワークづくりを検討していく予定です。就労訓練の業種が広がれば、仕事に就けていない方々の就労のチャンスが広がることになります。



福島での支援活動

“被災地を忘れない”^{いのち}生命に寄り添う支援を、これからも続けていきます。

**東日本大震災
復興支援の募金に
ご協力をお願いします。**



東京電力福島第一原発の事故によって日常の暮らしと豊かな自然との共生を奪われた地域では、未だ先の見えない苦しみ・哀しみの中にあり、それでも故郷で暮らしていこうと頑張っている人たちがいます。

2018年は、たくさんのグリーンコープの組合員が福島に赴き、被災地の今を感じ、現地の方々と交流を深めました。



◀福島県内の公園や学校を中心に約3600台設置されているモニタリングポスト(放射線の空間線量計)。未だに高線量が計測される場所があるにもかかわらず、国はそのうち避難区域外の2400台を2020年度末までに撤去することを計画している。

葛尾村

グリーンコープの組合員が葛尾村の米作りに参加しています

葛尾村では、互いに助け合う地域の「結」の文化をつないできた農家を支援するために、親戚のようなネットワークをつくり、賛同した全国からの支援者と共に米作りを行っています。

2018年はグリーンコープの組合員も手植えでの田植えや稲刈りに参加し、楽しく交流を深めることができました。今後もこの取り組みを通して、交流を続けていきます。



グリーンコープ生協
おおいた
理事長
宇都宮 陽子さん

葛尾村は、福島県浜通りにある山村。山々が青々と茂り心地よい風が吹く、だれの心にもあるような、懐かしい場所です。原発事故後全村避難となり、2016年一部の帰還困難区域を除き規制が解除されると約1500人の村民の内265人の方々が帰村されました。その多くは高齢者。「結」の文化を通して、村のじっちゃんばっちゃんを元気にしたいと計画された米作りには、毎回全国から100人を超える人が参加し、村の方々と温かな交流が結ばれています。



葛尾村のお米で甘酒を作りました

商品名の「ノマッシュェ」は、葛尾村の方言で「飲んでください」という意味。全国の支援者と育てたお米で作った甘酒を販売します。今後、グリーンコープでも企画する予定です。



ひまわりプロジェクト

福島のNPO団体から届くひまわりの種を、全国の支援者が育てて種を収穫。それを福島に送り、ひまわり油「みんなの手」に加工、販売しています。グリーンコープは、2014年からお店や各単協の施設などで、ひまわりを育てて種を送っています。収益金の一部は、福島の放射線量の高い地域に住む子どもたちが、放射線量の低い地域で学んだり、外で思いきり活動するための支援(子どもひまわり大使などに活用されています)。



▲ひまわり油「みんなの手」



▲2018年度ふくおか、おおいの組合員と子どもひまわり大使が交流しました。

福島ほかほかプロジェクト



▲保養先に行ったグリーンコープの組合員がスイートポテト作りで交流しました。



▲野外で思いきり遊ぶ子どもたち。

福島に住む子どもたちと家族のために、放射線量の低い地域で過ごしてもらおう野外活動の保養プログラムを継続しています。グリーンコープは、福島ほかほかプロジェクトからの要請を受け、安心・安全な食材を野外活動先に届けています。

プログラムの目的は、子どもたちが安心して野外で活動できることですが、保護者にとっても、不安な気持ちを話すことができる交流はとても大切なものとなっています。

花見山



福島市の桜の名所として親しまれてきた「花見山」。災害後の憩いの場にする取り組みとして桜を植樹されています。その取り組みに共感したグリーンコープの有志で200本以上の桜の苗木を購入し、植樹していただくことで被災者の方々の仕事づくりの応援をしました。現在も定期的に訪問し、苗木の生長と福島復興を見守っています。

花見山の麓でNPO花見山を守る会がはじめたサロン活動は、被災者が交流できる憩いの場になっています。

川内村



共生地域創造財団が貸し出したキッチンカーを使って、川内村から郡山市の仮設住宅に避難されていた方々に、仮設住宅の自治会が温かい食事を提供されていました。

現在は仮設住宅が閉鎖され、川内村に戻れた方々の交流の場となるよう、キッチンカーでの支援活動を続けられています。

南相馬市



▲グリーンコープが寄贈した放射能測定器



2015年グリーンコープから南相馬・避難勧奨地域の会へ放射能測定器を寄贈しました。南相馬・避難勧奨地域の会では、土壌汚染の実態調査として、残留している放射能を測定して市民に知らせる活動を行っています。

家屋周辺は除染され空間線量も多少下がってはいるものの、今も高い線量が計測される場所もあります。調査により、現状を知ることができると、感謝されています。

東日本大震災復興支援募金

何口でも申し込めます

008 一口 200円

009 一口 500円

カンパのお申し込みは
51・52号でできます
(3月4日~16日)

■共同購入申込書の申込番号の数量欄に口数をご記入ください。

※【例】申込番号 008 の数量欄に「2」と記入された場合は、400円のカンパとして受け付けさせていただきます。